参考様式B4（自己評価等関係）

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　6年　2月　17日　　事業所名：相好トランポリンクラブ・児童福祉センター四日市

		チェック項目	はい	いいえ	非回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	0	・法令に従って十分なスペースを確保している	
	2	職員の配置数は適切である	9	0	0	・基準人員を満たして配置している	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9	0	0	・バリアフリー対応（スロープ有り） ・扉の色などで、部屋を分かり易くしている	・情報伝達の配慮として必要箇所を見直し改善する
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8	0	1	・スタッフ間での話し合いの場を設けて意見交換し、業務改善に努めている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	1	・年1回、保護者の方にアンケートを実施し、全職員で内容確認を行い、ご意見を受け止めて業務改善に努めている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1	1	・ホームページにて公開	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4	2	・未実施	・必要に応じて検討していく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	2	0	・事業所内だけでなく社内全体での研修も行い、職員の資質向上を図っている	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	0	・6ヶ月に1回以上アセスメントを基に個別支援計画を作成している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	2	・聞き取りや行動観察によるアセスメントを行うとともに、他所での知能検査や発達検査の結果を保護者の方と共有して状況把握している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	1	・支援に当たる職員で意見を出し合い、よりよい内容になるようにしている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	0	・季節に合わせたレクリエーションやSST、製作などの活動を取り入れている ・毎週プログラム内容を変えている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	0	2	・休日や長期休暇はSSTやレクリエーションなど集団での活動や課題を多く設定している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	0	・発達状況や特性に合わせ、集団と個別のバランスを考え作成している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	0	・その日の主担当職員を中心に、支援内容や分担を確認・共有している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	0	・その日の振り返りで気づいた点を共有し、以降の支援に活かしている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	1	・利用ごとにお子様個々の支援内容を記録し、職員で共有・意見交換している	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	1	・6ヶ月に1回以上モニタリングを行い、個別支援計画を見直している	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	6	1	2		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	0	・サービス担当者会議には児発管、または該当児の主担当が出席している	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	9	0	0	・学校の予定や下校時間などの情報は保護者の方から直接を頂き、必要に応じて学校と連絡を取っている	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	0	4	・該当児なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	1	0	・必要に応じて連絡を取り、情報共有・相互理解に努めている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	1	4	・該当児なし	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	1	0	・児童発達支援センターを訪問し、助言を受ける機会を作っている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	2	1	・希望者は会社の運営する体操クラブの大会に参加し、一緒に活動する機会を持っている	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	3	4	2	・不参加	・今後の開催スケジュールを確認しながら、参加に努めていく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	0	・来退所時に様子を伝えあっている。また、支援記録でも情報を共有している	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	3	4	2	・ペアレントトレーニングは行っていないが、面談等で聞かれた際に家庭でできる関わり方や運動等を伝えている	・感染症も緩和してきたことから、保護者のニーズに合わせて親子プログラムを検討していく
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	0	・契約時に説明を行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	1	・ご相談にはその都度対応している。必要に応じて、個別面談の時間を設けている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	5	2	・現状、父母の会や保護者会はなし	・保護者の意見を踏まえながら、必要に応じて検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	1	・速やかな対応に努めている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	1	・システムや書面で情報発信をしている	
	35	個人情報に十分注意している	8	0	1	・守秘の徹底、鍵付きロッカーへの書類保管等を行い、注意している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	0	・不安や困りごとを話す場として気軽に面談できるようなお声掛けをしたり、個に応じて筆談や視覚支援を行っている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4	2	・現状では予定なし	・今後、検討していく
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9	0	0	・各マニュアルを策定し、常時閲覧可能としている。定期的に訓練を実施している	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	0	・年度の計画に基づき、訓練を実施している	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	0	・虐待防止委員会を設置し、職員の研修も行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	0	0	身体拘束は行っていません。安全上、身体拘束を行う場合は保護者に同意を得ることとしている	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	0	0	・医師の指示書などを共有いただき、対応している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	0	・ヒヤリハット事案は、直ちに管理者に報告し、報告書を作成して職員で共有している	